

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
小林大祐・山中千恵・島岡哉			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
織田 暁子		仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査演習 a	JNAa-140701-2	13人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

社会調査演習a(前期)では、毎時間、質的調査法に関する論文、質的調査の実例として複数の論文を読みながら、ゼミ形式で演習を行った。同時に、調査計画の設計とテーマの絞り込みを、自ら、先行研究を調べる作業を通して行った。その過程で、ほとんどの学生が、地域社会に出でのインタビュー調査を行う調査計画を立てた。この点に関しては、地域の人々の生業や価値観に触れる機会を得られ、有意義であった。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

地域、身体、サブカルチャー

2. 調査の内容／概要：

本クラスでは、統一テーマを設定していないため、毎年、多岐にわたる興味関心に基づいた報告書が提出される。単なる興味関心の記述に終わらないようにするために、前期は、調査方法論と、分析概念の多様性（社会学や民俗学の講義の復習にもなる）を再確認することに重点を置いた。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

それぞれの学生の調査テーマに従い、調査対象社を選定する。その際には、教職員や友人の持つネットワークも使いながら、アポイントを取り、主としてインタビュー調査、参与観察調査に入っていく。

4. 主な調査項目：

本年は、地域、身体、サブカルチャーの主な3領域に属する報告書群が執筆された。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

主として、反構造化インタビューの手法を用いる。ライフ・ストーリーやビデオエスノグラフィー、アンケート調査（単純集計）とインタビューの接合手法を用いた報告書も、今年度は執筆された。主として8月（試験終了後）から調査が開始される。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2014年8月～ 調査地は、各学生のテーマにより決定。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

学生による能力の差もあり、一概に評価を下すことはできない。ただし、本学の地域密着型小規模私立大学という特性もあり、地域のさまざまなファクターからのご協力を賜り、地に足の着いたデータ収集ができていたことは評価に値する。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

反構造化インタビューに基づき、コーディング作業を適宜行う。ただし、インタビューの流れが明確な場合は、かなり長い語りで構成された報告書も作成する。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

主として大学3年という年齢階梯で、普段認識していない地域の姿、メカニズム、人々の意識を知り、その意味を考えることは有意義であった。特に、ご当地アイドル、地元劇団、地元少年野球チーム、フィルムツーリズムやロックフェスなどのテーマは、現代社会の変容を反映している。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2015年3月刊行済み。